バドミントン競技実施要項

1. **競技規則**
大会開催年度の(公益財団法人)日本バドミントン協会競技規則並びに公認審判員規程、大会運営規による。

2. **競 技 種 目**
男子・女子ともシングルス及びダブルスと混合ダブルスの5種目とする。
※但しエントリー状況により、変更する場合がある。

3. **参 加 資 格**
(1) 男子・女子シングルス及び各ダブルスについての参加人数の制限はしない。
(2) ダブルスのペアについては基本的に同一加盟団体内での組むこと。しかし、各タブルス種目余剰の選手一名については、他加盟団体参加選手と組むことを認める。(ダブルス同意書は、選手登録申請と同様、通常締め切りとする)

4. **競 技 方 法**
各種目とも予選リーグ戦、決勝トーナメント方式及び三位決定戦で行う。但し、参加状況により、トーナメント方式で行うことがある。競技方法の決定は競技主管で行う。
予選リーグ15点　2ゲーム先取(延長なし)
決勝トーナメント21点　2ゲーム先取(延長あり30点まで)
※リーグ戦順位決定基準
① 勝ち試合のうち2－0は(2点)、2－1は(1点)、負け試合のうち0－2は(－2点)、1－2は(－1点)とし、合計点数の多いほうから上位とする。
② 勝ち点合計が2選手以上同数の場合は、次の方法により順位を決める。全試合(対戦)の取得ポイント総数をA、喪失ポイント総数をBとし、その得失ポイント差が大きいほうを上位とする。

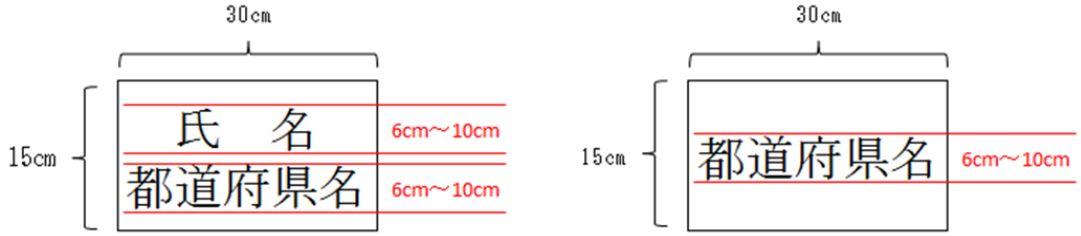
5. **使用シャトル**　(公財)日本バドミントン協会検定合格品とする。

6. **組み合せ抽選**
(1) 参加申込締切後、実行委員会においてレフェリー立会いのもとで、代理抽選により決定する。
(2) 男女シングルスは前回4位まで、ダブルスは前回2位までをシードする。

7. **表　　彰**
各種目とも、競技終了後閉会式において行う。

8. **競 技 服 装**
(公益)日本バドミントン協会が公認するもので、背面には都道府県名を入れたものを推奨する。(日本バドミントン協会大会運営規定第 23～24 条参照。)
(1) 公益財団法人日本バドミントン協会競技規則に則って背面表示にする。

(2) ゼッケンを使用する場合には4点留めとする。
(3) 背面中央には必ず都道府県名または氏名及び都道府県名のみを日本文字で明記し、文字の色は上衣に鮮明に映えるものとする。(服に直接プリントでも可)
(4) スポンサー、チームデザインを入れないこと。



9. 競技審判上の注意

(1) 選手はコールを受けた後、5分以内にコートに入ること。
(2) 進行状況により、試合開始時間・日程及びコートの変更をすることがあるので、場内放送(掲示)に充分注意すること。
(3) サービスジャッジは、決勝より付けるものとする。その他の試合においては原則として付けない。
(4) 試合を連続して行う場合のインターバルは 10分とする。
(5) 各試合(マッチ)のインターバルは次の通り
① すべてのゲーム中、一方のサイドのスコアが11点になった時、60秒を超えないインターバルを認める。(選手は20秒前にはコートに入ること)
② 第1ゲームと第2ゲームの間、第2ゲームと第3ゲームの間に120秒を超えないインターバルを認める。(選手は20秒前にはコートに入ること)
(6) インターバル中のアドバイスは、監督・コーチなど同時に2人まで。主審の「(コート番号)
20秒」で、コートから離れること。
(7) 試合開始前の練習(1分間)をする相手は対戦相手とする。
(8) 試合(マッチ)中の水分補給、汗ふきなどは必ず主審の許可を得ること。
(9) サービスの遅延行為に関しての判定は主審が行う。
(10) 主審が必要と認めた以外のプレーの中断は、一切認められない。
(11) 審判員の合図について
① 「アウト」は両腕を水平に広げて合図する。
② 「イン」は右手でそのラインを指す。
③ 「フォルト」(反則)は両手の小指を絡ませ、左手の小指から下へ切り離すようにする。
④ 「レット」(無効を意味し、やり直し)は、両手の拳を縦横にくっつけて横に寝かせてから、そのまま起き上がらせて立てる。
⑤ 「エンドの交代」は、両手を左右に伸ばし、それを前で交差させて示す。
(12) 次のような違反行為に対しては厳正に対処する。(競技規則第 16 条)
① 息切れなど体力回復等の遅延に関わる行為、又は、アドバイスを受けるためにプレ

ーを遅らせる行為。

② 主審の許可なしにコートを離れること。

③ 故意にシャトルに手を加えたり破損したりする行為。

④ 審判員や観客に対しての横柄な振舞い、下品で無礼な態度、言動。

⑤ 見苦しい着衣でプレーをする。

⑥ ラケットや身体でネットなどのコート施設を叩いたり、耳障りなかけ声や奇声を発するなどの不品行な振る舞い。

(13) 競技中の怪我や病気については、主審が判断する。もし必要ならレフェリーを呼び、レフェリーの判断に従うことになる。

(14) 審判の判定に「抗議」や「異議」を唱えることは一切認められない。もし判定に対し疑問がある場合には、次のサービスが為される前に「質問」をすることができる。ここで質問ができる者とは、当該選手に限る。

(15) 選手は試合終了後、選手同士の握手の後、主審(サービスジャッジ)とも握手をすることを心掛けること。

(16) 競技場内では、携帯電話の電源を切るか、もしくはマナーモードにすること。

(17) 会場内におけるコーチ席利用は参加登録者のみ許可する。

(18) 試合中にモバイル機器を使用したアドバイス・コーチングを受けることを禁止する。

10. 本要項の改正

- 一部改正　2016 年 6 月 1 日
- 一部改正　2018 年 2 月 1 日